様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成　25 年　5 月　20 日現在

機関番号：35413
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：平成 22 年度～平成 24 年度
課題番号：22610025
研究課題名（和文）　育児環境における情報収集過程と個人特性が養育者の心理的適応に及ぼす影響機序の解明
研究課題名（英文）The influence of the characteristics of caregivers and the collection process of childcare information on the psychological adaptation of caregivers
研究代表者
西村　太志　（Nishimura Takashi）
広島国際大学・心理科学部・講師
研究者番号：30368823

研究成果の概要（和文）：　本研究は、子育てにおける情報収集と対人ネットワークの特徴に焦点を当て、それらの環境の活用と養育者に及ぶ影響を包括的に検討した。子育てに関する周囲の対人資源の評価を「助け」と見なすか「重荷」と見なすかによって、養育者の心理適応や養育態度に異なる影響が及ぼすこと、またそれらの評価に子育て情報の獲得源の違い（PC や携帯電話､地域社会から)や個人が持つネットワークの特徴などが影響を及ぼすことが示された。
研究成果の概要（英文）：The present study examined the influence of the characteristics of caregivers and the collection process of childcare information on the psychological adaptation of caregivers. Especially, we focused on the characteristics of interpersonal network and information gathering in child-rearing. Such as the characteristic of their own social network and the source of information about child-rearing, affected the assessment of interpersonal environment of self. In addition, depending on whether regarded the interpersonal environment of self as "pressure" or as "help", rearing attitudes and psychological adaptation of caregivers were different.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
平成 22 年度	1,700,020	510,000	2,210,020
平成 23 年度	1,100,000	330,000	1,430,000
平成 24 年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総　計	3,500,020	1,050,000	4,550,020

研究分野：社会心理学、心理学、子ども環境学
科研費の分科・細目：時限、子ども学（子ども環境学）
キーワード：子育て情報の獲得と提供、養育者の対人ネットワーク、養育者の心理的適応

１．研究開始当初の背景

本研究課題の目的は、養育者の情報収集過程に焦点を当て、社会におけるよりよい子育て環境のあり方を検討し、豊かな子育て支援環境の構築に寄与することである。

次世代社会の担い手となる子どもの健全育成には、総合的な環境づくりや幅広い学術研究分野による知見の蓄積が社会的に要請されている。にもかかわらず、子育てに関わる対人環境が養育者にネガティブに機能する点について、メカニズムの解明も含めた研究知見の蓄積は不十分である。そこで、本研究では社会心理学や臨床心理学、看護学それぞれの理論的蓄積を発展させ、子育て環境における養育者の情報収集過程や個人特性が、養育者自身の心理的適応に及ぼす影響機序の解明を図る。

本研究課題では、子育てにおいて養育者が

周囲の他者や様々な情報源をどのように活用することが、養育者自身にどのような影響を与えるかを明らかにする。そして、よりよい子育て環境の構築に貢献することを目指す。この目的達成のために、養育者の個人特性や対人ネットワークが養育者の態度・行動に及ぼす影響、育児に関する情報の獲得源の違いが育児不安や育児制約感、子どもに対する受容に与える影響の検討を行う。加えて、障害児の養育者において、対人ネットワークや情報獲得の特徴についての検討も行う。さらに、これらの調査で得られた知見の実践現場における有効性を検証するため、子育て支援の現場における知見の適用を目指し、理論と実践の融合を目指す。

２．研究の目的

本研究では、子育てに関する環境要因や情報獲得の過程、およびそれによって生じる心理的適応を明らかとするために、以下に示した４つの概念間の相互影響過程を検討することを目的とした(図 1)。

第一点目は、子育てについてのサポートネットワークの様相である。これは、ネットワークサイズの視点と、子育てに関して個人が持つネットワークにおける価値観や役割の多様性（同質性－異質性）の視点を包含するものである。第二点目は、子育てに関する情報の獲得と周囲との関わりの評価である。特にここでは、情報資源を自分にとって「助け」と見なしているか、「重荷」と見なしているかに着目する。第三点目は、子育て環境への評価・感情と心理的適応である。養育者の適応状態を心理学で用いられる指標を中心に検討し、さらに周囲の子育て環境への評価や、養育者が抱く時間的制約感などの感情側面にも着目する。第四点目は、子育ての仕方である。これは、養育態度全般や、非意図的暴力などの側面を含む。さらに、これらの概念間の影響過程を調整する個人特性として、子育て完全主義傾向、また養育している子の特徴として、発達障害の疑いの有無も考慮して検討を行う。

本研究では、以上の概念間の影響過程を検討するために、二つの方法を用いた。

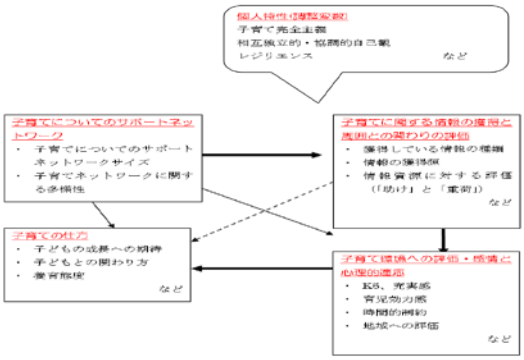

図１　本研究における影響過程の模式図

一つは、全国規模でのオンライン調査である。近年、オンライン調査の精度や登録モニターも増え、学術的調査の実施においても、費用等や対象者の確保の観点から効率的に実施できる。特に、乳幼児を養育している人の場合、直接の調査依頼を行い、即時の回答を求めることが、その環境上困難である。また、家庭におけるブロードバンド環境の普及により、簡便に回答可能な環境が地域の隔たりなく確保できる状況にある。

もう一つは、実際に子育て支援の地域活動を行っている団体を通しての検証である。本研究では、広島県三原市本郷地区の子育てサロン∞本郷、および三原市本郷地区母子保健推進委員等の協力の下、地域における防災マップの作成を行った。これは、本研究課題中に発生した東日本大震災を受けて、地域における防災情報を子育て中の人びとにも的確に提供することを目的とし、子育て中の人びとと子育て支援者の直接のつながりの強化を目指すものである。また、母子保健推進員が行う「こんにちは赤ちゃん事業」において構築された、出産後の母親との直接のつながりが、その後の養育者の子育て環境の評価にどのように影響を及ぼすのかを検討し、地域における子育て支援と対人ネットワークの関連性について考察する。

３．研究の方法

(1) オンライン調査

調査対象者：(株) クロスマーケティングが保有するモニター1470 名。就学前の子どものみを養育している人のみを対象とした。男性 772 名、女性 698 名。平均年齢 36.6 歳（範囲：23～66 歳）。　調査時期　2012 年 1 月。

調査内容：(1)育児におけるサポート・ネットワーク・サイズ：人数で回答。(2)ネットワークに占める異質性・同質性：(1)であげた他者のうち、家庭環境、育児に対する考え方、趣味・興味・関心それぞれにおいて異なる他者の数を回答してもらった。 (3)ネットワークの愛着源・情報源としての機能：(1)であげた他者のうち、安全な避難所や安全基地として機能する、あるいは必要時の情報をもつ他者の数を回答してもらった。(4)子育て環境認知尺度：子育てに関わる中「子育てについて意見をもらって、重荷（or 自分の助け）になると思った」など 8 項目について「全く思ったことはない：1」～「とても思ったことがある：4」で測定、最終的に助けと重荷の 2 因子によって構成。(5)育児への自信と満足：それぞれ百分率で回答。(6)子育て完全主義：三重野・濱口（2005）より 12 項目を抜粋、5 件法。(7)育児情報収集尺度：西村ら(2009) の育児に関する情報源をもとに構成した。地域に関わる項目として 4 項目、

PC、携帯電話、スマートホンでの情報収集（直接検索/ネットサーフィンをしていて）として計 6 項目を使用した。5 件法であった。(8) K6 日本語版：古川ら（2002）を 5 件法で測定した。(9) 養育態度：中道・中澤（2003）が作成した尺度 16 項目を 5 件法で用いた。得点が高いほど、それぞれの特徴が強いことを意味する。(10) レジリエンス：平野(2010)が作成した 2 次元レジリエンス要因尺度のうち、資質的レジリエンス要因を測定する 12 項目を用いた。5 件法。(11) 相互独立・協調的自己観：高田（200）の尺度の短縮版 10 項目を用いた。7 件法。手続き：(株) クロスマーケティング登録モニターに対して web 調査を実施した。就学前の子どものみを養育しているか否かを尋ねる項目を設定し、該当者のみに回答を求めた。スクリーニング：調査項目の中に、現在育てている子どもの中で、発達障害の疑いがある子どもがいるかどうかを尋ねた。発達障害の疑いのない子どもの養育者は男 661 名、女 603 名、疑いのある子どもの養育者は男 111 名、女 95 名。

(2) 防災マップ直接配付についての検討

対象者：2012 年 8 月末に、該当地域で母子保健推進委員の訪問対象となる 3 歳未満の子どもを持つ世帯 292 世帯の養育者。実施方法：母子保健推進委員の個別訪問時に、防災マップの説明と配付を行った。その際に、アンケート調査への協力を依頼した。調査は匿名で、直接郵送で回収した。各戸 1 部ずつ配付した。実施時期：2012 年 9 月中旬～10 月中旬。調査回答者：2012 年 10 月末までに郵送提出した 135 部（回収率 46%）を分析対象とした。女性 126 名、男性 4 名、不明 5 名。調査項目：(1)フェイス項目：回答者本人の年齢・性別、子どもの人数・年齢・性別、親との同居の有無、町域を 4 つに分類しどの地域に住んでいるかを尋ねた。(2)子育て防災マップ配布への意見や評価を求める項目：5 項目（a)災害時の対策に役立つと思った、(b)今回の防災マップ配付の取り組みを通して子育てに自信を持てた(c)今後の母子保健推進委員との交流に役立てようと思った(d)今後の母親同士の交流に役立てようと思った(e)地域の子育て支援イベントへ参加しようと思った、を尋ねた。「全く思わなかった（1)」～「とても思った（5)」の 5 件法で測定した。

４．研究成果

(1) オンライン調査で得られた結果

①子育てに関する対人環境認知と養育者の適応、養育態度の関連

図 2 の結果をまとめると、以下の 3 点に集約できる。第一に、周囲の子育て環境に対して「重荷である」という認知を持つことが、養育者の適応に悪影響を及ぼすことである。第二に、養育者の心理的適応状態が悪いと、応答的・統制的な養育態度を取ることに回避的になることである。第三に、周囲の子育て環境に対して「助けられている」という認知は、直接養育態度を規定するが、「重荷である」という認知は、適応状態を仲介し養育態度に影響を及ぼしていることである。

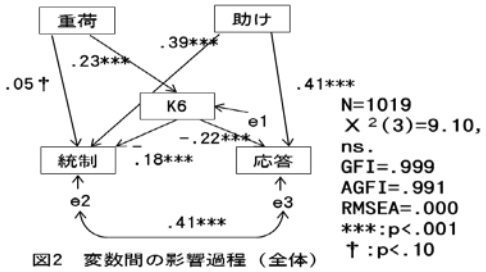

図2　変数間の影響過程（全体）

（註）　ネットワークサイズの値を統制した結果を示している。重荷と助けの間の誤差項間の共分散は-.11(p<.001)であった

②情報通信機器と対人環境認知に着目した検討

情報の獲得源の差異に注目した分析結果について、図 3 にまとめた。

PC での情報収集は、正負双方の影響が認められた。例えば、PC を利用するほど情報環境をサポート源として認識し、育児展望を高く見積もっていたが、直接的には精神的健康には負の影響であった。携帯電話、スマートホンは、基本的にネガティブな影響が主であった。一方で、地域からの情報収集をする人は適応的であることが示された。

これらから、育児情報収集をするにあたって、PC の利用は、情報環境をサポーティブであるととらえることができ、育児展望も高める可能性が示唆されたものの、情報の収集の仕方によって精神的健康の悪化の可能性を示唆しているといえる。そして、携帯電話やスマートホンは西村ら（2009）の研究と同様に悪影響をもたらす可能性が示された。そして、地域は安定した情報源として機能しているといえよう。

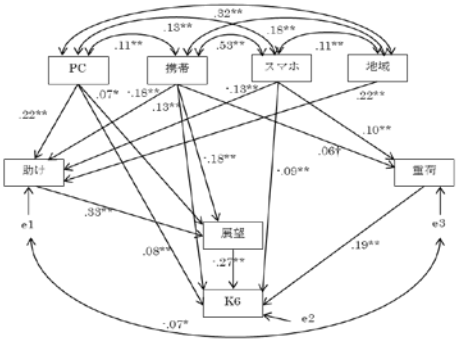

図3　子育て情報収集が適応に及ぼす影響（全体）
Note. GFI = .99, AGFI = .97, RMSEA = .03
**: $p < .01$, *: $p < .05$, †: $p < .10$

③育児サポート・ネットワークにおける同質性と異質性の効果

次の二つの結果が示された。第一に、育児に関する考え方についてそもそもネットワーク他者は同質的である傾向にあり、自信・満足の低い群においてはその傾向がより強まるほど愛着源となる他者も多くなりやすく、ひいては対人環境を助けと認知しやすくなる。第二に、興味や関心は、保持者の自信・満足の程度にかかわらず全般にやや異質的であり、いずれの群でもその強まりが情報源の獲得を通じて対人環境をサポーティブに認知させやすくする。これらのことは、多面的にネットワークを捉えた場合、側面ごとに異質性・同質性の働きが異なりうること、そして、目前のストレス対応に直接に関わるような事柄に関しては同質性が機能しやすいのに対して、そうでない事柄においては異質性が機能しやすい可能性を示すものである。後者について、特に自信がある場合には異質性の高さが情報源だけでなく愛着源の多さとも関連し、対人環境全般を助けと知覚しやすくなることも示された。

④育児サポート・ネットワークのサイズと同質性・異質性および制約感が子どもへの非意図的暴力に及ぼす影響

基準変数として非意図的暴力の程度、説明変数としてネットワークサイズと異質性と制約感、およびそれらの交互作用項を投入する階層的重回帰分析を実施した 。その中で特筆すべき結果を図 4 に示した。

まず、サイズと異質性の主効果の結果から、ネットワークが大きく、多様な価値観を持つ他者の割合がネットワーク内で高い事は、非意図的な暴力を抑制することが示唆された。養育者が多様な対人関係を育児中にも構築することが、子どもへの関わり方に肯定的影響を及ぼすと考えられる。

さらに、西村・相馬(2011)で示した、対人ネットワークが小さい場合時間的制約感の増大は非意図的暴力を増加させる効果は、同質なネットワークを持つ場合のみに適用され、異質なネットワークを持つ場合には、ネットワークが大きく制約感が低いことが、非意図的暴力を低下させることが示された。また異質なネットワークを持っていても制約感が高まると、相応に非意図的暴力の程度が高まることも示された。

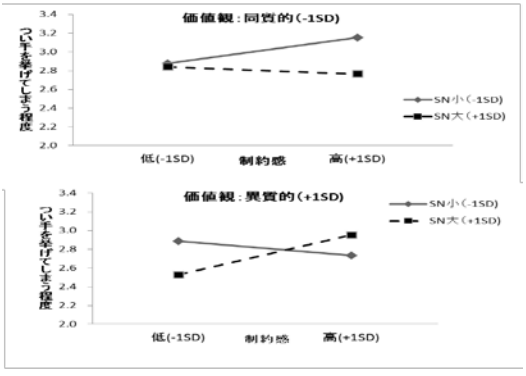

図4 SNサイズと制約感、SNメンバーと自身の価値観の同質性・異質性が子どもへの非意図的暴力に及ぼす影響

(2) 防災マップ直接配付についての結果

この取り組みについて、「災害時の対策に役立つと思った」については 88%の人が肯定的に回答した。また、「今後の母子保健推進委員との交流に役立てようと思った」については 44%の人が肯定的に回答した。この取り組みにおいては、防災情報は一つのツールであり、情報のやりとりが子育てにおけるコミュニティの活性化につながると考えられる。

加えて、それぞれの評価に影響及ぼす要因として、親世代との同居の有無、子どもの数、居住地域の 3 要因に焦点をあて、2×3×2 の分散分析を各項目得点に対して行った。その結果、「親同士の交流に役立てようと思った」は子どもの数の主効果傾向（$F(2, 123) = 2.81$, $p < .10$）、子どもの数×居住地域に有意な交互作用（$F(2, 123) = 4.21$, $p < .05$）が認められた。交互作用の結果を図 5 に示した。

子どもの数が増えると、親同士の交流期待が下がる傾向が示された。これは、子育ての経験が長くなることで、周囲との日常的な交流が保たれており、新たに関係を作り出すことを無理にしようとしてないと考えられる。その傾向が周辺部の 3 人以上において顕著である。これは、居住流動性が低い事も一因と考えられる。加えて第一子の場合、地域や親同士の交流への期待が高く示されている。地域コミュニティにおける子育て支援においては、第一子の親に対する効果的なアプローチが必要である。また、それは居住環境の流動性も考慮に入れる必要性が示唆された。

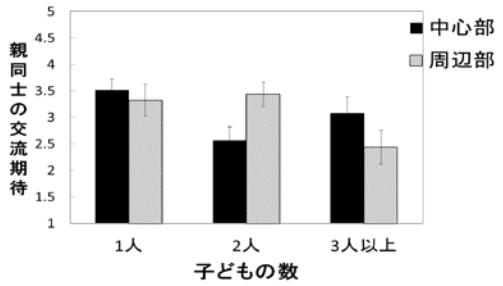

図5 子どもの数と居住地域の違いが親同士の交流期待に及ぼす影響

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 5 件）

1. Yanagisawa, K., Nishimura, T., Furutani, K., & Ura, M. The effects of general trust on building new relationships after social exclusion: An examination of the “Settoku Nattoku Game”. Asian Journal of Social

Psychology (Wiley-Blackwell), in press(DOI:10.1111/ajsp.12021).

2. 山下 倫美・相馬 敏彦 社会的相互作用における接近的・回避的動機づけが対人ネットワークの変化に及ぼす影響 流通経済大学社会学部論叢，22（2），2012，117-125.
3. 脇田　佑子・西村　太志・洲浜　裕典・井上　房美・木村　惇史・河野　政樹 発達障害児（者）養育者の支援に関する一考察 －子どものライフステージ、発達障害の程度と養育者の周囲との対人相互作用の観点から－ 日本小児心身医学会雑誌「子どもの心とからだ」，第 21 巻第 2 号，2012，246-251.
4. 相馬　敏彦・浦　光博　「かけがえのなさ」に潜む陥穽：協調的志向性と非協調的志向性を通じた二つの影響プロセス，社会心理学研究，26 巻、2010，131-140.
5. 内田　裕之　子育てにおける支援について、脳 21，13（2）、2010，133-137.

〔学会発表〕（計 27 件）

1. 西村　太志・板倉　宣孝・古谷　嘉一郎・相馬　敏彦・長沼　貴美・内田　裕之. 子育てに関する対人環境認知と養育者の適応との関係(1) -子育て経験によって生じる感情や評価の仲介過程の検討- 日本心理学会第 77 回大会，2013 年 9 月 19-21 日，北海道医療大学（2013/05/20 登録済み）
2. 板倉　宣孝・西村　太志・古谷　嘉一郎・相馬　敏彦・長沼　貴美・内田　裕之. 子育てに関する対人環境認知と養育者の適応との関係(2) ―資質的レジリエンス要因を交えた検討― 日本心理学会第 77 回大会，2013 年 9 月 19-21 日，北海道医療大学（2013/05/20 登録済み）
3. 西村　太志・大林　春菜・相馬　敏彦・古谷　嘉一郎・長沼　貴美. 地域子育て支援のための防災マップの配付が地域への評価に及ぼす影響 －母子保健推進委員を通した直接配付の効果検討－ 日本グループ・ダイナミックス学会第 60 回大会，2013 年 7 月 15 日，北星学園大学（2013/05/14 採択済み）
4. 西村　太志・相馬　敏彦・古谷　嘉一郎・長沼　貴美・内田　裕之. 育児サポート・ネットワークのサイズと同質性・異質性および制約感が子どもへの非意図的暴力に及ぼす影響 日本社会心理学会第 53 回大会，2012 年 11 月 18 日，筑波大学.
5. 山本　英梨佳・西村　太志. 開示内容の違いが自己開示対象の選択に及ぼす影響 ―関係流動性と自尊心に着目して― 中国四国心理学会第 68 回大会，2012 年 11 月 11 日，福山大学.
6. 古谷　嘉一郎・長沼　貴美・西村　太志・相馬　敏彦・内田　裕之. 子育て完全主義と対人環境認知が養育態度に及ぼす影響（1）自己志向的完全主義に着目して 日本パーソナリティ心理学会第 21 回大会，2012 年 10 月 7 日，島根県民会館.
7. 長沼　貴美・古谷　嘉一郎・西村　太志・相馬　敏彦・内田　裕之. 子育て完全主義と対人環境認知が養育態度に及ぼす影響（2）子ども志向的完全主義に着目して 日本パーソナリティ心理学会第 21 回大会，2012 年 10 月 7 日，　島根県民会館.
8. 相馬　敏彦・西村　太志・古谷　嘉一郎・長沼　貴美・内田　裕之. 支えとなるのは同質な他者でも異質な他者でもある？ －育児サポート・ネットワークにおける同質性と異質性の効果－ 日本グループ・ダイナミックス学会第 59 回大会，2012 年 9 月 23 日，京都大学.
9. 古谷　嘉一郎・西村　太志・長沼　貴美・相馬　敏彦・内田　裕之. 子育て情報収集行動が適応に及ぼす影響過程－情報通信機器と対人環境認知に着目した検討－ 日本グループ・ダイナミックス学会第 59 回大会，2012 年 9 月 23 日，京都大学.
10. 西村 太志・古谷 嘉一郎・相馬 敏彦・長沼 貴美・内田 裕之. 子育てに関する対人環境認知と養育者の適応、養育態度の関連 ―養育する子どもに発達障害の疑いがあるか否かによる比較検討― 日本心理学会第 76 回大会，2012 年 9 月 11 日，専修大学.
11. 板倉　宜孝・西村　太志・古谷　嘉一郎・相馬　敏彦 親の養育態度が援助行動の意図に及ぼす影響 ―災害後の状況を考慮した検討― 日本心理学会第 76 回大会，2012 年 9 月 12 日，専修大学.
12. 原　ひろみ・進藤　美樹・長沼　貴美 講義が学生の子どもに対する思いに与える影響について 第 52 回日本母性衛生学会学術集会，2011 年 9 月 30 日，国立京都国際会館
13. 石橋 正浩・石塚 友也・中谷 真弥・内田裕之・豊田洋子 投影法と心理臨床をつなぐために(2)：スーパービジョンを通しての「a-ha 体験」. 日本心理臨床学会第 30 回秋季大会，2011 年 9 月 2 日，九州大学
14. Uchida Hiroyuki, Myogan Mitsunori, and Tsujii,Masatsugu CDI and Lambda of High-Fanctional Pervasive Developmental Disorder XX International Congress of Rorschach and Projective Methods. 2011/7/19, National Youth Olympics Memorial Center, Tokyo.
15. Myogan Mitsunori, Uchida Hiroyuki and Tsujii Masatsugu. The Cognitive

Trait of ASD's：Developmental Change of Cognition by Aging.　XX International Congress of Rorschach and Projective Methods.　2011/7/19，National Youth Olympics Memorial Center, Tokyo.

16. Myogan Mitsunori，Uchida Hiroyuki and Tsujii Masatsugu. The Problem of Communication that Have People with Autstic Spectrum Disorder：from Relationship of Inquiry of Rorschach Test.　XX International Congress of Rorschach and Projective Methods. 2011/7/19, National Youth Olympics Memorial Center, Tokyo.
17. 相馬 敏彦・礒部 智加衣 異質なネットワークにくたびれる回避動機者、満たされる接近動機者，日本社会心理学会　第52回大会，2011年9月19日，名古屋大学
18. 西村　太志・相馬　敏彦　養育者の対人ネットワークと時間的制約感が子育ての仕方に及ぼす影響，日本社会心理学会第52回大会，2011年9月19日，名古屋大学
19. 相馬 敏彦・山下 倫実　回避動機が満たされれば安心できる？－社会的相互作用における接近・回避的動機づけが関係で経験される感情に及ぼす影響－，日本心理学会第75回大会，2011年9月15日，日本大学
20. 内田 裕之　投影法と心理臨床をつなぐために(1)：投影法理解におけるA-ha 体験，日本心理臨床学会第29回秋季大会，2010年9月3日，東北大学.
21. SOMA Toshihiko What social motivation of people does or doesn't favor dense network? The 12th European Congress of Psychology, 2011/7/5, Istanbul, Turkey
22. SOMA Toshihiko　Does having separate networks impair the quality of a relationship?　The 12th Annual Society for Personality and Social Psychology Meeting, 2011/1/28,San Antonio, Texas (America)
23. 西村　太志・木村　惇史・脇田　祐子・井上　房美・洲浜　裕典 発達障害児養育者の対人資源と育児関連情報が精神的適応に及ぼす影響.　日本社会心理学会第51回大会，　2010年9月18日，広島大学
24. 井上 房美・洲浜 裕典・脇田 祐子・河野 政樹・西村 太志 発達障害児（者）の保護者が療育施設に望むサービスについての検討　－障害・知的能力・問題行動と療育施設へ望むサービスとの関連－，第28回日本小児心身医学会学術集，2010年9月10日，石川県文教会館.
25. 脇田 祐子・洲浜 裕典・井上 房美・河野 政樹・西村 太志 発達障害児（者）保護者の療育施設と地域資源の活用についての検討　－療育をし始めてからの期間の違いに注目して－，第28回日本小児心身医学会学術集会，2010年9月11日，石川県文教会館.
26. 洲浜 裕典・脇田 祐子・井上 房美・河野 政樹・西村 太志 発達障害児者のライフステージと家族支援・地域支援ニーズとの関連，第28回日本小児心身医学会学術集会，2010年9月11日，石川県文教会館.
27. 原 ひろみ・長沼　貴美　学科の異なる学生の子どもに対する思いの違いについて　第6回中国四国思春期学会，2010年7月3日，　徳島大学医学部付属病院.

〔図書〕（計1件）
西村　太志.　子育てとコミュニティ　加藤潤三・石盛真徳・岡本卓也（編著）　コミュニティの社会心理学，2013年発行予定　ナカニシヤ出版 .

〔その他〕
○中国新聞　2012年3月30日付け記事で研究の取り組みの一部を紹介された（http://www.chugoku-np.co.jp/kikaku/child/news/120330.html ）

６．研究組織
(1)研究代表者
西村　太志（NISHIMURA Takashi）
広島国際大学・心理科学部・講師
研究者番号：30368823

(2)研究分担者
長沼　貴美（NAGANUMA Takami）
広島国際大学・看護学部・教授
研究者番号：80432714

相馬　敏彦（SOMA Toshihiko）
広島大学・大学院社会科学研究科・准教授
研究者番号：60412467

古谷　嘉一郎（FURUTANI Kaichiro）
比治山大学・現代文化学部・講師
研究者番号：80461309

内田　裕之（UCHIDA Hiroyuki）
大阪大学・大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学研究科・准教授
研究者番号：90461350
（平成22～23年度）